

女性自衛官が母校の横須賀高校で後輩にやりがいを話す



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は3月18日（月）、掛川市の横須賀高等学校において、同校を平成29年3月に卒業し陸上自衛官となった田村喜世子陸士長に、自衛官の魅力をPRしてもらった。

田村士長は現在、東千歳駐屯地（北海道千歳市）第1高射特科群で勤務するが、日頃から母校の恩師や自衛隊に興味を持つ後輩に自衛官という仕事の魅力をPRしたいと強く希望していたところ、ようやく実現できることとなった。

掛川市担当広報官の渡辺悠太3等海曹とともに母校を訪れた田村士長は、進路課長をはじめ恩師に近況を報告した後、自衛隊のことを詳しく知りたいと希望する生徒と約1時間にわたり懇談した。

田村士長からは、自分が陸上自衛官を選んだきっかけとして「緑の迷彩が格好良かったこと」や「戦闘職種で働きたかったこと」などを紹介。また、高射特科部隊での仕事の様子や、各種通信関係の資格を得るなどやりがいがあることについてわかりやすく説明するとともに、自衛官は男女の区別なく活躍していることを優しく丁寧に伝えていた。

懇談した生徒は「先輩から直接仕事のやりがいや試験対策、入隊前にやるべきことなどを教えてもらい、とても参考になった」と採用試験の受験に意欲を見せた。一方、母校訪問を終えた田村士長は「今まで誰かに自衛隊を説明するという機会がなかったので、自分自身とても勉強になった。また機会があればやりたい」と笑顔で語った。

静岡地本は、今後も地元出身隊員が母校で近況報告などをする機会を積極的に支援して、生徒たちに自衛隊の魅力を伝え、若者が描く未来の夢や可能性の拡大、結果に貢献していく。

息子の成長を期待し涙する母親らの見送りの中、入隊予定者が出発



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、3月26（火）、本部庁舎前（静岡市）において、陸上自衛隊武山駐屯地（神奈川県横須賀市）第117教育大隊に入隊予定の23人を激励するとともに、自衛官の道のりに送り出した。

午前6時半、今にも雨が降り出しそうな空模様の中、県中部地区から陸上自衛隊一般曹候補生として入隊予定の若者たちが、家族とともに続々と集まり始めた。

午前7時、家族へは笑顔を見せつつも緊張した面持ちの入隊予定者たちは、これから自衛官として同じ志を持つ同期を意識してか自然と2列に整列し、間もなくして宮川本部長が正面玄関から姿を現すと、全員が自ずと姿勢を正した。

宮川本部長は「厳しい訓練の中にも片時も国防や災害対処を担う使命を忘れず、努力は自分を裏切らないので高みを目指して頑張ってください。そして、一生の宝である同期と助け合い、今後の活躍を期待している」と激励の言葉を贈った。

入隊予定者は、しばしの別れを惜しみ涙する母親と力強く手を握り合った後、大型バスに乗り込み、家族や友人、本部職員、担当広報官からの盛大な拍手と「頑張れ！」というエールを受け、武山駐屯地へと出発した。

静岡地本は、今後も入隊者やその家族へのサポートを継続的に実施し、郷土・家族に対する思いを胸に、それぞれが一人前の自衛官に成長できるよう見守っていく。